

2 「乗りたくなるバス」を目指す

(1) 利用者サービスの向上策

成果指標 (KPI)

⑤年間利用者数/年間総走行キロ 1. 4人キロ以上

市営バスでは、これまでも社会状況の変化に合わせ、「福祉優待乗車証制度、ふれあい定期、マタニティカード、1日乗車券」を導入し、外出の機会を推進してきました。今後も社会状況の変化を踏まえ、利用者サービスがさらに向上するよう取り組んでまいります。

① 「ふれあい定期70」の新設

高齢化の進展に合わせ、70歳～74歳の方を対象とした「ふれあい定期70」を新設することとします。また、これに合わせ、免許を自主返納した方に「ふれあい定期」を5割引で販売する割引制度の対象を70歳まで引き下げます。

市営バスでは、これまで75歳以上を対象に市営バス市内全路線で利用可能な高割引定期券「ふれあい定期」を販売することにより、高齢者の健康増進や社会参加の促進を図ってきました。既存の「ふれあい定期」に合わせ、新たに「ふれあい定期70」を設けることでより多くの皆様に市営バスを日常的にご利用いただける環境を整えていきます。

② 小・中・高校生向け運賃「こどもミライ割」の新設

小・中・高校生の運賃体系を見直し、休みの日や夏休みなどの長期休暇限定で小学生無料、中・高校生100円の新たな運賃を設定します。

友人との交流や習い事など、子どもたちの多様な活動を交通面から支えることで、地域全体の子育て支援と教育振興に寄与していきます。また、子どもの時からバスに親しんでいただくことにより、末永く市営バスをご利用いただくことを期待しています。

③ キャッシュレス決済の拡充

利用者の利便性向上を目的として、現行の定期券等の決済方法（QRコード決済等）に加え、クレジットカードのタッチ決済など多様なキャッシュレス決済手段の情報収集に努め研究します。

④ 待合環境の整備

市街地や住宅地のバス停においては、設置スペースの制約がある中で、効果的な待合環境の整備が求められています。そのため、計画的に上屋・バス停の整備・更新、省スペース型ベンチの設置を行うことで、利用者が快適にバスを待てる環境を創出します。



2 「乗りたくなるバス」を目指す

(2) 利用促進を目指した情報発信の強化

成果指標 (KPI)

⑤年間利用者数/年間総走行キロ 1. 4人キロ以上

① 乗りたくなる気運の醸成・情報発信

市民の皆様に「市営バスに乗ってみたい」「もっと市営バスを利用したい」と感じていただけるよう、SNS等を活用した情報発信を展開し、市営バスに乗りたくなる気運を醸成します。

常に利用者ニーズの把握に努め、状況に応じてポスター・チラシ、SNSなどを活用し、市営バスの運行情報やイベント告知、新しいサービス内容など、必要な情報をタイムリーに届け、利用促進に繋げます。

② 乗り方教室等を通じた地域PRの実施

自治会のイベント等へ出張し、沿線地域にお住いの「バスをあまり利用しない」方々向けに市営バスや公共交通への理解を深める機会を創出し利用促進を図ります。

また、将来の利用者である小学生を対象とした職場体験の受け入れや、体験型イベントへの積極的な参加を継続的に実施します。

普段触ることのできないバスの運転席に座る体験やバスの仕組みを知る機会を提供することで、公共交通への関心を高めます。また、バスの安全な乗り方、交通ルール、バス利用時のマナーなどについても学ぶ機会を提供します。これにより、バスに乗る楽しさだけでなく、公共交通を利用する上でのマナーを広めていきます。

